

在学生の皆さんへ

東京都市大学
副学長（総括・教育担当）大上 浩

令和3年度 第2クォーターの授業開講方針の変更等について

本学では緊急事態宣言の発令期間が6月20日まで延長されることを受け、時限的な対応として、第2クォーターの授業は、本学が定める「ステージ4（すべての科目をオンライン型授業とする）」で実施する措置をとってきました。学長会議では、その後の新型コロナウイルスの感染状況の推移を注視し、東京・神奈川・埼玉・千葉の1都3県の感染者数が減少傾向にあることから、「ステージ2」に移行することを決定しました。今後の第2クォーターでは、学生の皆さんが安心して学修に専念できる環境を提供し、学修機会の確保に努めるために、感染防止対策を十分に講じたうえでハイブリッド型授業を効果的に実施するものとします。

1. 本学の定める対策ステージの変更

- 本学の定める感染対策ステージを「4」から「2」に変更します。
- 6月15日（火）から6月22日（火）までを移行期間とし、ハイブリッド（遠隔）型授業に切り替えられる科目から適宜切り替えます。実験・実習・実技科目等については、同様に対面型授業に切り替えます。（履修学生への周知は科目担当者が行います。）

ステージ	授業内容と授業形態
0	すべての科目を対面授業。
1	可能な限り対面型授業。ハイブリッド型授業を併用。
2	原則としてハイブリッド型授業。実験・実習・実技科目等を対面型授業。
3	原則としてオンライン（遠隔）型授業。実験・実習・実技科目等を対面型授業。
4	すべての科目をオンライン（遠隔）型授業。

※ 今後、他のステージへの移行が必要になった際には、学長会議で決定の上、速やかに通知します。

<変更後> 第2クォーターの授業開講方針
ステージ2：原則としてハイブリッド型授業。実験・実習・実技科目等を対面型授業
<ul style="list-style-type: none"> ・授業は対面型とオンライン型（遠隔）を併用した「ハイブリッド型」とします。 ・教員は講義室で講義を行い、同時にオンラインで学生に配信します。 ・学生の皆さんは、対面型あるいはオンライン型を選択し、受講します。 ・授業は、すべて録画され、履修学生はオンデマンドで何度でも見ることができます。 <p>※ ハイブリッド型授業は、学生皆さんの受講形態の希望を最大限尊重しつつ、対面型とオンライン型のメリットを活かした授業とすることで、対面型授業と同等以上の教育効果を得ることを目指しています。なお、どちらの形式で受講しても、学修面での不利益が生じないように工夫します。</p>

2. ハイブリッド型授業について

- ▶ 原則として、教室等において対面型授業を実施しつつ、これと並行して Zoom などのウェブ会議システムを利用し、教室外へ同時双方向配信によるオンライン型授業を行います。
- ▶ 授業は、すべて録画され、オンデマンドで何度も見ることができます。
- ▶ ハイブリッド型授業を対面型で受けるか、オンライン型で受けるかは、第1クォーター開始前に行った希望調査に基づきますが、対面型の受講を希望していた学生が、オンライン型の受講へ変更する場合、これを認めます。逆に、教室収容人数に余裕がある場合、オンライン型から対面型の受講へ変更することを認めます。変更希望者は所属するキャンパスの教育支援センターに問い合わせてください。

3. 例外的な科目について

- ▶ 個別の事情によりキャンパスに来ることのできない学生や、登学を希望しない学生の皆さんに対しては、理由を問わず、いずれの科目も登学せずに受講できるよう対応することを原則とします。オンデマンド型授業を受講する場合、担当教員が、所定の授業時間の中で出席をとると共に、15分以上の質問や討議の時間を設けますので、活用してください。
- ▶ 履修者数が 200 名を超える多人数科目はオンライン(遠隔)型授業とします。(同じ担当者の同じ科目で 1 部のクラスで履修者が 200 名を超える場合、すべてのクラスでオンライン型授業とします。)
- ▶ 実験・実習・実技等の実際の活動の経験が教育的意味のある授業については、内容の再構成、実験室等のほかに一般教室併用などの適切な工夫の下で、三密を避けつつ対面型授業とします。どのようにしても三密を避けることが困難な場合には、対面型授業の学生数を抑制する対応をとります。(対応の詳細については、別途指示します。)

4. タイムテーブルについて

朝夕の通学通勤時間帯を回避するため、特例措置として、始業時間を 9:30 とすると共に、授業時間を 90 分×14 回とし、終業時間を早めます。90 分×15 回を想定している標準的な大学と比べて授業時間が 90 分間少ないことから、これについては、授業中に課すものに相当する課題研究等に代替すること等により、必要な学修時間を確保することとします。

1時限	9:30~11:00
2時限	11:10~12:40
3時限	13:30~15:00
4時限	15:10~16:40
5時限	16:50~18:20

※ 休憩時間を従前どおり 10 分、
昼休みは 50 分とします。

5. 研究活動について

- ▶ 4月21日(水)付「まん延防止等重点措置中の研究室所属学生の研究活動について」及び4月19日(月)付「新型コロナウイルス感染防止のための研究室(実験室)利用ガイドライン」の内容により、活動を認めることとします。

6. そのほか

- ▶ 大学院科目についても、本方針に準じることとします。
- ▶ TAP 語学準備講座などの授業外の学習については、本方針に準拠しつつ適切に対応するものとします。

以上

2021年4月21日

在学生の皆さんへ

東京都市大学
副学長(総括・教育担当)
大上 浩

まん延防止等重点措置中の研究室所属学生の研究活動について

学長会議では感染者数の推移を注視しながら、学生の皆さん及び教職員の安全・安心を第一に考えて、学生皆さんの入構について議論を重ねてきました。まん延防止等重点措置が2021年4月9日(金)に発令され、4月20日(火)からはその適用区域が、東京・神奈川・埼玉・千葉になったことと、これらの区域の感染者数が急激な増加傾向にあることを考慮し、2021年4月23日(金)から研究室所属学生の研究活動を以下の通りとします。

■ 研究活動(研究室所属学生の登学)

自宅等で行うことを基本としますが、実験などの研究室で行う必要性の高い研究活動については、感染予防対策を徹底したうえで大学院生、4年生、事例研究に従事する3年生の登学を認めます。なお、登学の必要性は指導教員と学生で良く話し合い、指導教員から強要することが無いようにお願いします。また、外出に不安がある学生の皆さんはリモートで指導を受けることが可能です。

■ 感染予防策の徹底

別添の「新型コロナウイルス感染防止のための研究室(実験室)利用ガイドライン(2021.4.19版)」に注意事項をまとめています。指導教員と学生の皆さん全員でそれらの注意事項を共有して遵守し、徹底した感染予防対策を講じてください。

■ 研究室・実験室等の利用申請と利用時間

平日・昼間も含めて利用申請が必要です。研究室・実験室(教室等も含めます)は、毎週利用申請をすることにより平日・休日の所属学生の使用を認めます。ただし、20時までに帰宅するものとします。

■ 利用者数の制限

学生同士の接触機会を物理的に減らし、研究室での密度を下げることは感染防止のために重要です。研究室・実験室を同時に利用する学生数は最大でも平時の50%以下とします。部屋を分散する・班分けしてシフトを組むなど工夫してください。

■ 研究室での飲食

研究室での飲食は必ず一人で行い、絶対に会食しないよう注意して下さい。

以上

新型コロナウイルス感染防止のための研究室（実験室）利用ガイドライン(2021.4.19 版) Laboratory usage guidelines for preventing new coronavirus infection

副学長(研究担当) 野中 謙一郎
Vice-president (in charge of research) Kenichiro Nonaka

下記は、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の下で、研究室や実験室を可能な限り安全に利用するための、注意事項をまとめたものです。感染防止のために遵守してください。ソーシャルディスタンス等一般的な感染症予防策を取っていることを前提としています。

The following is a summary of precautions for using laboratories and laboratories as safely as possible under the State of Emergency Declaration or stricter measures to prevent the spread of the virus. Please observe to prevent infection. It is assumed that general infectious disease prevention measures such as social distancing are taken.

要点 Summary

- ✓ 毎日の検温・マスク着用・手洗い等基本的感染予防策の徹底
Basic infection prevention such as daily temperature measurement, wearing a mask, and washing hands.
- ✓ 発熱・体調不良などの場合は登校しない
Do not go to school if you have a fever or feel unwell.
- ✓ 研究室内で密を避け、小まめに換気・消毒。発表会はオンライン
Avoid denseness in the lab and diligently ventilate and disinfect. Presentations must be online.
- ✓ 対面での飲食は厳禁
Face-to-face eating and drinking is strictly prohibited.
- ✓ 実験室などの共用部分は小まめに消毒
Diligently disinfect common areas of laboratories
- ✓ 自宅で作業できる場合は自宅で研究活動
Research activities at home if you can work at home

研究室(実験室)利用時の教員・学生の留意事項 Precautions for faculty/students when using the laboratory

1 健康管理 Health care

- 教員・学生間で速やかに連絡が取れるような通信手段（携帯電話や SNS 等）を確保する。
Prepare communication means (mobile phones, SNS, etc.) that allow faculty members and students to quickly contact each other.
- 毎日検温するなど健康をチェックし、都市大アプリに登録する。厚生労働省の新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCCA)も利用する。一週間以内に発熱や体調不良の自覚がある場合は登校しない。
Perform health checks such as measuring body temperature every day, and register with the Tokyo City University app. Also, use the new Coronavirus Contact Confirmation App (COCCA) of the Ministry of Health, Labor, and Welfare. Do not go to school if you are aware of fever or poor physical condition within a week.
- 新型コロナウイルスの罹患が判明した場合には、学生は学生支援センターと指導教員に連絡する。指導教員は学生支援センターと連携して、学内や研究室における濃厚接触者を把握する。
Students should contact the Student Support Center and their academic advisor if they are found to be affected by the new coronavirus. The academic advisor will cooperate with the Student Support Center and identify the close contacts on campus and in the laboratory.

2 研究室・実験室の利用 Use of laboratories

- マスク、消毒用アルコールを完備し、マスク着用・手洗い・消毒を励行する。
Equipped with a mask and rubbing alcohol, wear a mask, wash your hands, and disinfect.
- 各人が「3密（密閉空間・密集場所・密接場面）」回避に努める。
Each person strives to avoid three Cs (closed space, dense place, close scene)
- 3密回避のため、必要に応じビニールカーテンにより、学生の席や実験装置ごとに仕切りをする。
To avoid the 3Cs, vinyl curtains will be used to partition each seat and experimental equipment.
- 研究室・実験室を定期的に換気する。（1～2時間毎に5～10分以上）。可能なら常時開放する。
Ventilate the laboratory regularly. (5-10 minutes or more every 1-2 hours). Always open if possible.
- ドアノブやテーブル、PCのキーボードやマウスなどの共用部分は定期的に消毒する。
Regularly disinfect common areas such as doorknobs, tables, PC keyboards, and mice.
- 学生の座席や共有スペースの座席が密にならないように、間隔を十分に確保する。
Make sure there is enough space between the student seats and the seats in the common space.
- 対面で飲食をしない。
Do not eat or drink face-to-face.
- 可能な範囲で装置のリモート運転化を進める。
Promote remote operation of equipment to the extent possible.
- 実験室内にて作業着、スリッパ等を利用する研究室では、極力個人専用のものを用意し、それらではできるだけ清潔を保ち、定期的にクリーニングをする。
In the laboratory where work clothes, slippers, etc., are used, prepare personal items as much as possible, keep them as clean as possible, and clean them regularly.
- 実験室内で、器具洗浄、試薬棚、乾燥機などの共通設備の動線に配慮する。
Consider the flow lines of common equipment such as equipment cleaning, reagent shelves, and dryers.
- 実験装置等は、誰がいつ利用したかを必ず記録に残す（利用ログノート）。
Be sure to record who used the experimental equipment and when (use log note).

3 研究指導やゼミ、発表会など Research guidance, seminars, presentations, etc.

- 研究室・実験室などの同時利用者数を平時の50%以下になるようにする。研究・実験のシフトを組む・自宅で作業するなどの工夫をする。
Keep the number of simultaneous users in laboratories to 50% or less of normal times. For example, divide the members into groups and use the lab in turn, work at home, etc.
- 研究室への学生の入退室は指導教員が管理し、入構時には、必ずICカードによる登録を行う。
The instructor manages the entry and exit of students into the laboratory, and when entering the laboratory, be sure to register with an IC card.
- 一室に集合してゼミ等を行わず、特に必要でない限り、オンラインでのミーティングとする。
Do not gather in one room for seminars, etc., and hold online meetings unless otherwise required.
- 卒論・修論等の発表会はオンラインで行う。
Presentations such as thesis and master's thesis will be held online.
- 研究計画は、学生の事情や感染症の流行状況に応じて柔軟に調整し、学生のメンタルケアを心掛ける。
The research plan should be flexibly adjusted according to the circumstances of each student and the epidemic situation of the infectious disease, and the mental care of the student should be kept in mind.

変更履歴

2020年5月23日 初版（総合研究所）

2020年11月23日 改訂

2021年01月09日 改訂. 要点を追加.

2021年01月10日 短縮. 日英対応.

2021年04月19日 改訂